

yuica 結馨に込めた思い

私達のブランド名「yuica 結馨」の「結」には、人と人のつながりや人と人の相互扶助の意味が含まれています。

私達は、日本の森の香りで人と人をつなぎ、yuicaの香りで心を癒してもらえようというブランドを目指してyuica 結馨と名付けました。」



yuica 結馨が結ぶこの人

そこで、今回は、yuicaの香りを通して弊社と出会い、杜の都仙台の地でyuicaの香りを通して、人と人の心を結ぶご活動をさ

れているこの人・佐藤智子様をご紹介いたします。

yuicaスベシヤリストでもある佐藤様は飛騨高山から遠く離れた宮城県仙台市で「ナチュラルセラピー心緑」アロマセラピーサロン&アロマスクールを運営されております。

そこで、佐藤様が香りに携わるお仕事を始めたまきっかけからyuicaを通じた活動などについてお話を伺いました。

宮城県仙台市での佐藤様のご活動

— 私が香りを生かす仕事 —
アロマセラピーに興味をもったきっかけは、娘がハンディキャップを持って生まれたことにあります。

自然療法の一つでもあるアロマセラピーは、香りとセラピストの手を通じて「こころ」と「からだ」の両面からアプローチすることができます。それは決して一方的なものではなく、香りや人肌の温もりを感じてもらえることで、自然な会話に繋がっていくことを実感していったからです。私は、娘とのコミュニケーションの

中に香りを取り入れ、時にはトリートメントなど肌と肌が触れ合うことを心掛けています。すると、お互いが自然の香りに癒され、自然と親子の会話が弾んでいくのです。

そんなアロマセラピーと出会ってから約10年。私の活動の場もどんどん広がっていききました。

特に2016年には福祉・介護・医療の現場においてアロマセラピーや



日本の森から生まれたアロマ yuica 結馨を生かす

福祉・介護・医療の現場では、当然にも安全、安心なアロマセラピーの提供が求められます。そのサービスの担い手となるアロマセラピストは、小瓶に入った精油の1滴1滴がいかに濃密で人の心身に影響を与えることを様々な側面から理解し、必要な知識と技術を習得していく必要があります。

そして、一番大切なことは、アロマセラピーに使用する精油が、品質管理面やトレーサビリティの把握が行き届いていることです。

私も実際に現場を拝見しましたが、飛騨高山の地で生産され、それらの条件が適っているyuicaの

精油には大きな魅力と期待を感じています。

これからも、アロマセラピーやyuicaの香りを通して得られる子どもたちの笑顔や高齢者施設でのハンドトリートメントなどの際にヒノキの香りを嗅いだ方が、「森の香りだね」「これはヒノキだね」と日本の香りだからこそ弾む会話や、子どもたちの自然な笑顔に出会えることを糧に、これからも日本産アロマと共に活動を広げていきたいと思っております。

支援の現場で子どもたち、幅広い世代の方たちと

日本の森の香りで対話しています

yuica 結馨が結ぶ「あの人この人」



佐藤智子

ナチュラルセラピー心緑主宰
(一社)地域福祉アロマケア協会 理事

住所:宮城県仙台市青葉区昭和町2-23
ノース・アーバンビル701

TEL:022-341-6909 <https://sin-ryoku.com/>

*現在は障がいを持つ方をセラピストとして育成する活動も行っています。